10.人や国の不平等をなくそう

「協生ステーションarcoíris」開設

慶應義塾は、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）を尊重する環境を整え、一人ひとりが互いに助け合い、理解を深めながら協生社会を先導していくことを目指す「Pride Commitment」の一環として、2025年6月に「協生ステーションarcoíris（アルコイリス）」を開設しました。

「協生ステーションarcoíris」は、ジェンダー、セクシュアリティ、障害、人種、文化など、私たちの間に存在する様々な違いを“違い”ではなく、“個性”として尊重し、理解しあうことを目指す情報発信と交流の場です。学生および教職員が誰でも安心して利用できる安心・安全な空間として、静かに読書や勉強に集中したい時の利用のほか、話したいことや相談したいことがある時には、コーディネーターと対話することも可能です。

名称の「arcoíris」はスペイン語で「虹」を指し、希望や未来、多様性、架け橋といったポジティブな意味を持っています。異なる色が調和して一つの美しい虹を成すように、多様な個性が共に生き、響きあう社会の実現に向けて、「協生ステーションarcoíris」は、学生・教職員にとっての居場所となることを目指しています。

主な取り組みとして、ジェンダーやセクシュアリティ、生活、キャリア、就職・就労に関する個別相談を受け付け、相談者が安心して思いを話せる機会を提供しています。また、DEI推進の拠点として、学内の関連組織や各種相談窓口と連携し、全学的な支援体制の構築を進めています。さらに、誰もが安心して過ごせるキャンパスを目指し、学内の環境や制度のバリアフリー化を推進するとともに、「協生環境推進ウィーク」などを通じた啓発・情報発信、ワークショップや勉強会の開催にも取り組んでいます。

慶應義塾は、「協生ステーションarcoíris」を通じて、多様性を尊重する文化のさらなる醸成に努めていきます。



協生ステーションarcoíris



安心して過ごせるようにパーテーションで区切られたブース

多様な利用者に応える大学図書館を目指し、第22回メディアセンター研修会を開催

メディアセンターでは、2025年11月21日、「どうすればよい?大学図書館の『合理的』配慮 ～多様な利用者と状況に応えるために～」をテーマに、第22回メディアセンター研修会を開催しました。本研修会は、メディアセンター職員をはじめ、関心を持つ教職員が参加できる機会として企画されました。

2024年4月に改正障害者差別解消法が施行され、大学を含むすべての事業者において合理的配慮の提供が義務化されました。これにより、学内の事務部門や教育・研究支援の現場において、障害のある学生・教職員を含む多様な利用者への対応の重要性が一層高まっています。大学図書館であるメディアセンターにおいても、図書館サービスの提供や職場環境の整備において、合理的配慮をどのように理解し、実践していくかが重要な課題となっています。

本研修会では、「改正障害者差別解消法や読書バリアフリー法を踏まえた大学図書館の役割」、「障害のある学生への合理的配慮と多層的な支援」、「誰もが安心して力を発揮できる職場づくり」をテーマに、専門家による講演が行われました。法制度に関する知識をアップデートするとともに、大学としての合理的配慮に関する課題や捉え方を学び、大学図書館の現場対応や職場環境を中心に、「どのように考え、どのような備えをするべきか」を改めて考える機会となりました。

米国AHEAD有識者招聘特別企画を共催

2025年10月17日、AHEAD JAPAN（一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会）主催の米国AHEAD有識者招聘特別企画に、協生環境推進室が共催として参画しました。改正障害者差別解消法の施行に伴い、障害学生支援が新たな局面を迎える中、本企画は、障害のある学生の学修や生活をより充実させるとともに、社会人への移行を支える取り組みを強化し、日本の高等教育における障害学生支援の発展に貢献することを目指して実施されました。

当日は、米国で50年にわたり積み重ねられてきた障害学生支援の経験や実践について、講演やトークセッションを通じた共有が行われました。支援のコーディネートにおいて重要となる概念や考え方、実務のあり方を学び、今後の高等教育における障害学生支援の充実に向けた実践的な示唆を得ました。

教職課程センター公開研究会「世界の子ども達に等しい教育の機会を」開催

2025年9月20日、教職課程センターは、慶應義塾の卒業生で、UNICEFや世界銀行をはじめとする国際機関で教育コンサルタントを長年務めてこられた野呂（中島）朋子氏をお迎えして、オンラインで公開研究会「世界の子ども達に等しい教育の機会を」を開催しました。野呂（中島）氏からは、数々の障壁によって子どもたちが安心して学校に通うことが難しくなっているウガンダの事例を中心に話題提供をしていただきました。教職課程を履修している学生たちと共に、今日不登校が増加している日本でも問われている「なぜ学校に通わないといけないのか?」という子どもの視点からの問いを、普遍性と地域性の両面から改めて深く検討する貴重な機会となりました。

「協生環境推進ウィーク2025」開催

2025年11月28日～12月16日、「協生環境推進ウィーク2025」を開催しました。本企画は、慶應義塾における協生環境の実現に向けて、協生環境推進室が取り組む「ワーク・ライフ・バランス」、「バリアフリー」、「ダイバーシティ」、「コミュニティ・エンゲージメント」の4つの活動をテーマに、生徒・学生・教職員をはじめとする参加者が多様性への理解を深め、誰もが安心して学び、働き、生活できる環境づくりについて考える機会として実施したものです。期間中は、講演会やセミナーなど全6企画を開催しました。

11月28日の「ジェンダー・セクシュアリティ論公開講座」では、LGBTQA+の若者の調査から見えてきた課題を取り上げました。大規模調査を基に、いじめや孤立、社会的偏見がメンタルヘルスに及ぼす影響や、友人・仲間、居場所、性的マイノリティーを理解し支援するアライ（Ally）の活動、いじめ防止の仕組みといった「つながり」が若者のウェルビーイングを支える重要な力となることを共有しました。12月2日には、「“性”の多様性」をテーマに、多様な背景を有する人々が互いの尊厳を尊重し合う社会のあり方について学びを深めました。さらに12月5日には、肉乃小路ニクヨ氏を迎えたトークショーを開催し、自分の頭で考え、言葉にしながら自分らしい人生を築くことの大切さについて考える機会としました。

また、ワーク・ライフ・バランスの観点から、12月11日にKINDプログラム・介護セミナー「仕事と介護を両立させる秘訣～介護は突然やってくる、その時に慌てないために～」を開催し、介護の事前準備、介護保険サービスの利用法、仕事と介護を両立させるポイントなどについて専門家から学びました。12月12日開催のCAREセミナー「自己表現ができる!アサーションスキルを学ぼう」では、自分も相手も大切にするコミュニケーション手法や、心理的安全性のある職場づくり、人間関係の形成について理解を深めました。

最終日となる12月16日には、日本初のオストメイトモデルであり医師でもあるエマ・大辻・ピックルス氏による講演「アカペラを生きる～人工肛門と私の人生リスタート～」を開催し、難病との闘いやストーマ（人工肛門）造設の経験を伺いました。障害や疾病の有無にかかわらず、自分らしく生きること、多様な身体や生き方を尊重することの意義を考える機会となりました。



エマ・大辻・ピックルス氏講演

2025年度藤沢市民講座「誰もが自分らしく暮らせるまちへ:藤沢発・共生社会のつくり方 ―看護医療学部開設25周年に向けて―」開催

2025年11月、湘南藤沢キャンパス（SFC）にて、2025年度藤沢市民講座を開催しました。本講座では、「医療的ケア児や障害のある方、自宅療養者が地域で暮らし続けるための支援」、「孤独・孤立の予防に向けて善行団地を舞台に看護学と社会学の視点から進められてきた地域参加型研究（CBPR）」、「地域福祉の視点から『社会的つながり』がもたらす影響」などを全3回にわたって取り上げました。藤沢市や地域の福祉・看護関係者と共に、誰もが自分らしく暮らせる協生社会の実現に向けて連携して取り組む意義を考える機会となりました。

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議から提出された提言の中から審査を経て採択されたものは、学生が主体となる「塾生会議プロジェクト」として具体化され、様々な活動へと発展していきます。

地方学生プロジェクト

SDGsゴール10「人や国の不平等をなくそう」の理念に基づき、地方出身生への支援を通じて、慶應義塾における学生の多様化を推進するプロジェクトです。

「地方出身×ひとり暮らし」の学生を主な対象とし、入学前後や大学生活における不安を軽減するためのソフト面での支援を実施しています。「2030年までに地方出身生の割合を40%まで回復させる」ことを目標とし、多様な背景を持つ学生同士の交流や議論を促進することで、新たな価値の創出や社会課題の解決につながる環境づくりを目指しています。

2025年3月19日と3月27日、地方出身の新入生が入学前に抱える疑問や不安を解消することを目的として、オンラインでの入学前交流会を開催しました。在学生による、実体験を踏まえた大学生活やひとり暮らし事情などの話を聞けるほか、新入生同士や在学生と交流できる機会となりました。

また、2025年4月2日～4月4日の3日間、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」の協力の下、夕食を無料で提供する「よる食堂」イベントを開催しました。「地元愛を伝えよう」「ひとり暮らし自炊問題解決」などのテーマを設定し、不安を抱える入学直後の地方出身の新入生が交流できる場を設けました。

さらに、健康面や精神面、交友関係等ソフト面での包括的支援を目的としたデジタルパンフレット「Unlimited Vol.3」も昨年度に引き続き作成し、入学前交流会や「よる食堂」参加者に配布しました。



よる食堂の様子



Unlimited Vol.3